

歴史的街並みに歴史を加える —北前船の川湊・由利本荘市石脇地区の景観演出—

山口 邦雄 秋田県立大学建築環境システム学科

1. はじめに

本報は、北前船が寄港した秋田の川湊に面する石脇地区において、切妻造妻入の屋根に化粧梁、深いけばらと下屋を持つ町家様式による歴史的街並みを、景観演出によって、あたかも一夜のまぼろしの如く現代に甦らせて次代の歴史をつくっていかうとする取組みの報告である。

2. 景観保全・修復の提案が思わぬ展開に

秋田県由利本荘市の石脇通りは、かつての川湊に面し、物流の結節点として栄え、醸造業等の経済活動も盛んな地域であった。しかし、舟運から陸運への転換や地方都市に顕著な人口減少により活力が低下し現在に至っていた。また、市の中心部は土地区画整理事業等により現代的デザインの景観形成が進められてきたが、石脇通りではこうした事業が行われず、古い町家建築が手入れされないまま残っていた。地方都市によく見られる現象である。

さて、都市の魅力の本質は多様性 (Diversity) であり、都市・建築分野から言及すれば、現代的な都市景観 (Modern Landscape) とともに歴史的な都市景観 (Historical Landscape) を持つことが魅力強化につながる。こうしたことから石脇通りを市全体の歴史的街並みの軸と構想し、2014年から筆者の研究室が街並み調査を行い、将来に向けた景観保全・修復の構想を立案した。これをもとに地域発表会を連続して開催し、地元町内会との意見交換を進めていた。

具体的な動きは、NPO「由利本荘にかほ市民が健康を守る会」というまったく予想外の組織からの連絡により始まる。「健康を守る会」は医師・看護師らが中心の団体であり、高齢者の家に引きこもりが健康の阻害要因の一つであるという観点から、石脇通りに出てきてもらい楽しんでもらうことを考えていた。研究室の発表を見て、石脇通りを素材とした活動を一緒にしたいということであった。

そこで、2015年に地元町内会や他団体・企業も交えて実行委員会を組織し、①古い街並みに合わせて多くの人に浴衣で来てもらい、そぞろ歩きできる場を創りだす、②かつての川湊の橋をライトアップして健康に対する啓発活動を行う、③石脇通りの再生についてさらに研究し発表する、以上の3点を骨子とする「石脇通りと由利橋、今昔の由利本荘を浴衣で歩こう！」のイベントを企画・実施した。研究室は、竹籠に和紙を張った行灯「たんころりん」を石脇通りに並べ、夕暮れ時に歴史的街並みを仄かな光で浮か

表1 実行委員会の構成

- ・NPO由利本荘にかほ市民が健康を守る会
- ・医療法人作左部医院
- ・秋田県立大学都市アミニティ研究室
- ・石脇中町町内会
- ・上町町内会
- ・新町町内会
- ・ブラウブリッツ秋田
- ・齋彌酒造



図1 「たんころりん」の製作



図2 イベント当日の様子



図3 町家の開放

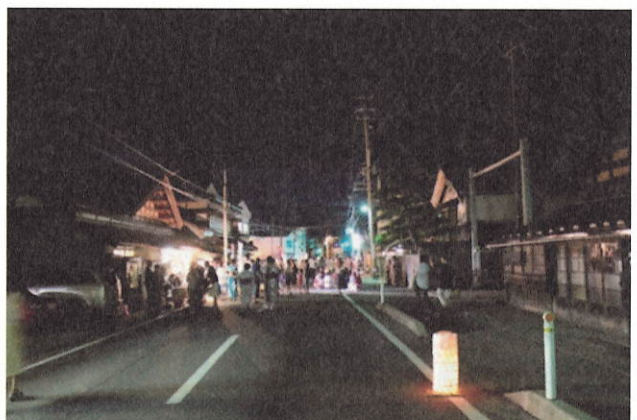


図3 歴史的街並みの景観演出

び上がらせる景観演出を住民の参加を得て実施した。

3. 地域資源の有機的連鎖をもとに歴史を書き加える

この一連の取組みにより、石脇通りは、一夜のまぼろしの如く、普段とはまったく異なる表情を見せるに至った。さらに、当初は意図していなかったが、歴史的景観の「施設」分野、NPOや大学研究室の「人材」分野、町内会等の「コミュニティ」分野、提灯や暖簾の「文化」分野の各地域資源がこの取組みを通して顕在化し、有機的連鎖性を取り戻した。

今年度は、実行委員会への参加団体が増加し、町家を活用したインスタレーション、売り買いを通じた交流拠点としての「蔵の市」、障がい者グループによる作品ギャラリー等が企画されている。歴史的街並みの残る石脇通りに、これまでにない歴史が書き加えられようとしている。